

議 事 録

| | | | |
|-------------------------|--|-------------------------|--|
| 会議名 | 令和3年度寒川町社会教育委員会議第3回公民館部会 | | |
| 開催日時 | 令和3年12月16日（木）午後1時30分～午後3時45分 | | |
| 開催場所 | 寒川町民センター 1階 会議室 | | |
| 出席者名、 欠席者名及び 傍聴者数 | 出席者：森委員(部会長) 堀委員(副部会長) 小泉委員 山口委員 欠席者：菊池委員 事務局：高橋教育政策課長 山口教育政策課副主幹 小林教育政策課主査 指定管理者：別府町民センター館長 佐々木町民センター副館長 堂前北部公民館副館長 渡辺南部公民館副館長 傍聴者：なし | | |
| 議 題 | 報告事項 (1)第2次寒川町教育進行基本計画の策定について (2)寒川町公民館及び寒川町立文化福社会館の指定管理者の指定について (3)令和3年度神奈川県公民館連絡協議会表彰被表彰館の決定について (4)派遣委員報告 (5)令和3年度公民館事業実績報告（9～11月分）について 協議事項 (1)令和3年度公民館部会の協議テーマについて | | |
| 決定事項 | | | |
| 公開又は 非公開の別 | 公 開 | 非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む） | |
| 議事の経過 | <p>1. 開会 あいさつ 森部会長 高橋教育政策課長</p> <p>2. 議事録承認委員の指名について 各回名簿順に2名ずつ依頼 小泉委員 山口委員</p> <p>3. 報告事項 (1) 第2次寒川町教育振興基本計画の策定について 事務局から資料2について説明</p> <p>【部会長】では、ただいまの事務局からの報告について、御意見、御質問があれば、お受けしたいと思います。</p> <p>では、私からですが、たまたま先日、ある中学生と話をする機会がありました。その中で、例えば、英語の授業で、外国人が来たら、その方に寒川をどうやって紹介し</p> | | |

ますかというような授業があったそうです。そうしたら、寒川神社というのは、みんな出てきた。その後、何も出てこなかったそうです。ちょっと信じられなかったんですよ。私はボランティアガイドやっているものですから、来年は大河ドラマの『鎌倉殿の13人』で梶原景時が出てきますが、その館が寒川に有ったと吾妻鏡に載っている、又、大（応）神塚という古墳がある、そんな話をしましたが知らなかったと言うんですよね。ぜひ、授業でやってほしいと言いましたが、授業はちょっと無理だよと。だから、もし何人かで、寒川の歴史を聞きたかったら、観光協会に声かけてもらえれば、ボランティアガイドで協力できるからと私の名前を教えました。地域の先生というか、地域の人たちとの交流とか、実際、授業はどうやっているか分かりませんが、その中学生だけではなく、町民の人が、寒川のこと、どう紹介するんですかと言ったら、多分、寒川神社という話になると思います。では、寒川神社の何を紹介するかというと、多分、古いとか、そのぐらいしかないのかなと。神社の向きや太陽の動きだとか、まだまだいろいろありますが、ほとんどの方が知らないと思います。そういうものも、我々もまた発信していかなければいけないのかなと思っているところです。そういった事が公民館事業とどうつながっていくかは、ちょっとまだクエスチョンですが、皆さん、それぞれのところでいろいろ活動されているので、そういうものがきっかけに、子どもたちとつながっていき、ここにも書いてある郷土愛とか、そういうのにもつながってくるのかなと私は思います。

【事務局】ありがとうございます。学校教育の部分は、この会議の場では申し上げることができませんが、社会教育の方針の⑧のところ、地域の伝統、文化財を保護し、郷土への愛着を育む活動という、計画的に言うとシビックプライドを醸成する、郷土の誇りとか、町に愛着を持ってもらう取組があります。寒川に住んでいてよかったとか、寒川のことを誇りに思えるような気持ちを育てていくような取組というの、とても必要だと思っております。特に寒川は、遺跡の多い町であったりとか、寒川神社があったりとか、そういういろいろな文化財がたくさんありますので、当たり前でそこにあるのではなく、そういう歴史をもっと皆さんに知ってもらいたいというのがありますし、今は新しく、町外から引っ越してきていただいた住民の方も多くいますので、そういう方にもっと知っていただきたいという機会は、公民館の活動であったり、文化財の活動だったり、あと図書館とか、そういうところで、図書館とかでも調べられるような形で町としても整備をしていったほうがいいのではないかと考えておまして、この計画にも載せて、そういう事業も今後いろいろ取り組んでいきたいと考えております。大河ドラマで梶原景時が登場することは1つの大きなきっかけにはなると思いますので、その辺りから、寒川がどういうところなのかというのを知っていただくいい機会になるのではないかと考えております。

【副部長】私は英語を習っていますが、外国人の先生に寒川はどういうところかを聞かれます。そうすると、今おっしゃったように、寒川神社が一番最初に出てくるわけですね。寒川神社だけじゃなくて、私、写真やっていますので、写真の撮り方で、例えば、町の花だとか、木だとか、それから年に2回、ダイヤモンド富士というのがあって、これが撮れるといういいところだということを、社会教育と直接関係あるかどうかは別にして、そういう紹介を一応しております。写真やっていると、あちこち町の中を歩きます。写真を撮ってないと、ダイヤモンド富士なんて知らないと思いま

す。それから、町の水仙、金木犀、あれが町の木だとか、そういうことを紹介していますが、なかなか知っている人が少ないです。そういうところをPRすれば、公民館活動は直接関係ないかもしれませんが、町のことや地域の文化財とか、そういうものが紹介できるんじゃないかと思います。

【部会長】ありがとうございます。観光協会がボランティアと一緒に、寒川の冬のヒマワリのイベントを開催して、今年も大勢の方が来ていただきました。今回は一人一人にアンケートを書いてもらうには、非常に大変なことで、コロナのこともあり、あまり集中しないように、帰りにシールを貼ってもらう形にしました。全員に御協力いただけませんでした。遠くから来た方は、北は北海道で、南は四国が1名ぐらいいたかと思います。それはたまたまかもしれません。私が見てちょっと思ったのは、寒川の方でも初めてという方が結構いました。今年6年目でしたが、まだまだなのかなと思いました。ある方には、随分定着してきましたねという声もあるのですけどね。

【副部会長】そうですね。私もヒマワリの件に関しては、東京の方から電話がありました。テレビ中継をやっていたので、そうすると、寒川って何、でも冬のヒマワリあるんですか、どこでやっているんですかというような問合せがあるんですよ。たまたま私は観光協会がよく写真掲出しているから知っているの、回答できましたが、そういうPRはなかなか効くなと思いました。特にテレビで放送されると、あちこちから来ますね。

【部会長】今年は、TBSの夕方の天気予報の時間帯に放送されました。それと20日に読売新聞の朝刊に出て、一気に来場者が増えました。過去には、NHKとか、いろいろな新聞に取り上げられました。後の話題にも続くと思うんですけど、同じことするだけでは駄目ですね。実は、今年ももう10万粒まいています。あと、川とのふれあい公園とか、あるいは東中のそばにも種をまいている。たまたま今年も相模線100周年と新型車両ということで、ヒマワリとコラボで撮っている方が、相当いたようです。私はちょっと行き損ねてしまいましたが。

【副部会長】私も撮りましたよ。

【部会長】近くの方も相当来ているとは聞いていました。そういうことで、少しでも町をPRできているのかな。微力ですが、一生懸命活動はさせていただいているのですけどね。

【副部会長】今年も5か所ぐらいたったんですね。4か所ですか。

【部会長】毎年、寒川神社のそばがメインで、去年から川とのふれあい広場に種をまいています。去年はそこでライトアップをしましたが、今度サイクルロードができるための工事の車両が入るので、夜のライトアップは危ないのでやめました。今年も、観光協会が育てた苗を、里親制度として事前に希望者に配って、各家庭で花を咲かせてもらいました。各家庭の環境によって、花が咲いてないのもありましたが、それを中央公園に持ってきてもらって、夜にライトアップしました。あと、多摩大の学生に宣伝を書いてもらいました。暗いところなので、我々も交通整理をしました。小学生が、ばたばた走り回るので、事故が起きないように気を遣いました。何か違うことを行くと人が集まってくると実感しました。ちょっと手前みその話になってしまいました。ほかに何かございませんか。

【事務局】先ほど、ある中学生に尋ねたら、寒川神社以外は出てこなかったということ

で、恐らく学校の授業でも、町のことについて、寒川神社だけじゃなくて、梶原景時ですとか、いろいろなことを教えているとは思いますが。ただ、やっぱりそれが一方通行的な単なる知識にとどまっているのではないかと、私もちょっと思っているところです。今年、町も町内小・中学校8校に1人ずつ、外国人指導者というネイティブの方を8人採用しました。今までは全ての学校で4名しかいなかったのに、2校掛け持ちで何日来てくれるかみたいなのところでしたが、今年はその方が、朝からもう授業の終わりまで、放課後までいてくれる。何がいかと子どもたちも含めて聞きますと、今までは知識として英語を習いますが、それをどういう場面で使えばいいのか、例えば、お店で買物するとか、旅行するとか、いろんな場面で、そのときにはネイティブスピーカーって、こういう英語をこういう場面で使うという知識と場面がリンクしていなかった。そこが一番、日本の英語教育の問題点らしいのですが、ちょっと今の部会長のお話を伺っていて、そこと似ていると思いました。郷土教育を学習しても、何かと関連づけて覚えると、結構、印象に残ったり、覚えやすかったりすると思います。公民館活動とか、いろんな講座もそうだと思いますが、単に知識として学んでいただくだけでなく、やっぱり関連づける。それは知識を、いろんなものに活用するという関連づけもあると思いますし、先ほどの話にもありましたとおり、誰かに自分の知っていることをつなげてあげる、冬のヒマワリだったら、ここに行けばいいよとか、こういう写真を撮ったんだよとか、何かと関連づけていくことが、より求められているのかなというふうに思っていますので、社会教育も文字どおり、さっき図も見ていただきましたけど、学校は学校、社会教育は社会教育ということで縦割りになるのではなくて、お互い連携するべきところはして、つながっていくことで、あまり関心なかった子も、いろんなことを知ったり、それを自分の友達に教えてあげたりという、そういうことが、より求められている、そういう方向でいけばいいかなと思いました。

【部会長】 そうですね。学校教育にもそれをもうちょっと誘導していけるとね。手助けできる部分は、協力したいと思っています。皆さんもそれぞれいろいろやられていると思います。教育というと、またちょっと違う形で何かやっていけたらと思います。公民館のほうも、もっと若い人が来るようになるのかなと思います。まだちょっと、私も漠然とした形ですがそう思います。

【副部会長】 今おっしゃったように、関連するのは非常に大事なことですが、私の孫に、今の英語の教育はどうやっているか聞いたら、関係代名詞なんて出てくるんです。ああ、これじゃ、英語は駄目だなと思いました。場面に合ったような形で教育していかないと、関係代名詞だとか、i n gだとか、そういうことでは、英語の教育としてのあれはいいかもしれないですけども、言葉としてのあれは駄目なんですよ。英語というのは勉強じゃないんです。というのは、小さい子どもというのは、その環境に合ったような形で日本語を覚えるように、英語も同じだということを言っているんですよ。英語も、その環境に合った形で教えれば覚えていきます。だから、皆さん、よく言うように、ハローというのは、すぐにできる。これは環境に合っているからですね。そういう意味で、うちの孫のいうような英語の教育では覚えられない。ちょっと余談になりましたけれども、そういうことですね。

【部会長】 今年、小学生対象で公民館と町民センターで英語の講座をやられましたが、あれだけでは、私はもったいないと思いました、正直言って。費用問題とかその他い

ろいろあると思いますが、授業じゃなくて、ああいう形でもっとできるといい。5、6年生は、緊急事態宣言の影響で中止になったので、見に行けませんでした。特に1、2年生だと初めての子もいれば、一方ではもう勉強している子もいると、見ていると分かります。だけど、あの中でやっている、だんだん慣れてきて、最後は一緒に、何かできたということで、プラスになっているのかなど。だから、1回の講座だけで終わるといのは、もったいない。授業とは違う形で、できることがあるといいと個人的には思いました。

【事務局】 関連事業としては、年明けの3月19日の土曜日に、東京都英語村という東京都が運営している施設に公募バスツアーを行います。お昼代とかは自分で用意していただきますが、往復のバスツアーで、参加費は無料で72名の定員で予定です。これはいきなり学校行事として取り組むというのは、なかなか最初はハードルが高かった。まず社会教育の事業としてやった結果で、この取組のよかった点、悪かった点というのが見えてきますから、そこから得たものを踏まえた上で、将来的には、やはり学校の行事として取り組んでくれる学校が出てくればいいなとは思っております。あと、学校に上がってというのはありますけど、やはり関心のある方は、幼稚園、保育園の未就学児の頃から、なるべく早く外国語に親しんでほしいという気持ちをもつ保護者も増えていきますので、そこも含めて、どういうふうに環境を整えていくか。先ほどのご意見にもあったように、勉強にならず、自然に日本語を子どもたちが覚えるような感覚で、英語も同じ日本語を学ぶような感じで親しんでほしいと思っています。我々、数値目標とよく言われますが、英検何級の合格者数とかというのにしたらという声も一部ありましたが、今はそれではなく、英語の勉強が楽しいって答えてくれる子どもたちの数を増やそうという目標で取り組んでいますので、その先、さらに検定とか英検とかを受験して合格したいというのは、それは人それぞれでいいと思っているので、まずは、そういう環境を整える。そのリード役として、社会教育が、今、頑張っているということでもあります。

【副部長】 今おっしゃったように、子どもらにどういう教育しているのか私も先生に聞きました。まず、文法をやらないです。果物は何です。電車は何と、交通機関は何だ、人は何だ、そういう絵を並べて教えるんです。絵がいっぱい描いてあって、これは何、これは何、これは何、毎週やるらしいです。

【部長】 まさに今年の公民館の講座は、そういう形でした。

【副部長】 そうですか。それはいいですね。それで小さい子も興味持つからね。

【部長】 オール英語で、日本語をしゃべる先生もいましたが、一応すべて英語でということで、英語が分からない子も分からないなりに、とけ込んで、だんだんできるようになっていました。それだから、低学年の子にも自然と身につくのかなと思いました。あれ1回限りで終わりといのは、もったいない気がしました。学校の授業と違う、英語に親しむという別な形で、支援、応援というようなものができればと個人的には思います。

【副部長】 TOEFLだとかありますけど、それは高校とか大学とかなって、社会に必要なときに、やればいいのであって、低学年の場合には、やっぱり興味を持つような形でやったほうがよいと私も思います。私も学生時代に英語をやりましたけども、あの関係代名詞とか、現在進行形だとか、ああいうことをやられるとちんぷん

かんぶんになって、英語を嫌いになっちゃいますね。

(2)寒川町立公民館及び寒川町立文化福社会館の指定管理者の指定について

事務局から資料3について説明。令和4～8年度の5年間の公民館指定管理者の募集を行い、10月に申請書提出、プレゼンテーション実施の上、指定管理者選定委員会において候補者選定。11月の教育委員会臨時会、庁内の会議を経て、12月議会で議決。現在の指定管理者である株式会社オーエンスが次期も指定されたことを報告。

【部会長】 ただいまの説明に対して、御意見、御質問があったら、お受けしたいと思ます。もし言えればということでもありますけど、評価のところ、先ほどの選定委員8人がコメントをつける欄のようなものはありますか。ただ単に点数だけですか。

【事務局】 今回は点数のみです。この答申書にも、特段、補足でコメントはいただいておりません。実際には何社か応募があると比較してというような比べ方もできますが、今回は1社だけなので、標準に達しているかというところで判断となりますが、実際には、例えば、提案いただいたものを、そのままやっただけではなくて、町の施策や計画などと合わせて、指定管理料の面もありますけど、その金額に見合った形で、この5年間の管理運営を協議していくことが今後の予定になります。

(3)令和3年度神奈川県公民館連絡協議会表彰被表彰館の決定について

寒川町南部公民館が令和3年度神奈川県公民館連絡協議会の優良公民館表彰に決定したことを報告。令和4年1月28日の県公民館大会で表彰式開催予定。

(4)派遣委員報告

寒川町公共施設再編計画進行管理委員会

【部会長】 寒川町公共施設再編計画進行管理委員会に、社会教育委員から選出されて、11月18日の第1回会議に出席しました。当日は委嘱状の交付や副町長の挨拶、それから委員の自己紹介。委員7名ということですが、1人欠席がありまして6名出席でした。委員長、副委員長の選出ということで、委員長は山崎さんという東海大学の工学部の教授、副委員長は寒川の社会福祉協議会の会長の方になりました。

会議の内容は簡単に言うと、建物があちこち老朽化で、雨漏りが多い。ただし、お金の問題がある。順番として給食センターの建設が行われるということ。それと消防が茅ヶ崎市と一体になるということで、南部に分署、北部のところに出張所という形を置く。要は、茅ヶ崎エリアとトータルで物事を考えていくという話がありました。南部地区は2025年頃に完成予定、それから北部については2031年頃に完成予定で進めますという話がありました。消防は茅ヶ崎市と一緒にになると、今後、消防署の職員というのは茅ヶ崎市の職員になるようです。私は立地がどこになるか質問しましたが、というのは、公民館建て替えが関連するというような話をちらっと聞いていたからですが、まだそれは言えませんという話で、どこに建つのかは、ちょっと濁されたので分かりませんでした。多分、寒川の南部地域だと、田端、一之宮とか、この間も歩いていて、大体この辺りかなと思いましたが。あと、北部地域はちょっと分かりませんでした。消防署移転に併せて、すぐ公民館が移設するかは優先順位あるので今すぐで

はないようです。公民館の話の中で、南北公民館で、部屋の使用状況に差があるというような話が出ていましたが、私は、北部公民館は足の便が悪いのが原因ではと云いました。

【委員】北部公民館はエレベーターがついていないでしょう。

【部会長】エレベーターもないし、まず、公民館の立地と交通手段が違う。南部公民館は意外と住民が多い地域にある。コミュニティバスが通っている。北部公民館は海老名と寒川のバスしかなく、循環バスが来てないということで、高齢者の方の比率が北部のほうが低い。気軽に公民館に行けない人もいるというようなことを話しました。南部公民館は駐車場が狭い。北部公民館も駐車場を近くに借りているそうですが、そばが五叉路で、ちょうどカーブがあり、危険なことがあります。それから、雨漏りがひどい。図書館分室はちょっと大雨が降ったりすると本がぬれてしまうということで、ビニールをかけているんですね。そんなところはほかにはないんじゃないですかというような話をすると皆さん、えっという感じで聞いていました。それから、学校の統合ということで、小・中学生も、このままいくと減少していくことと、校舎の老朽化の問題があるということで、今後は統合案を出していくという話がありました。また、健康管理センターなど保健施設を集約したものを建てる予定が、去年ストップがかかって、ペンディングになった話が出ていました。結果的に言うと、ペンディングでよかったねという話です。その建設を急いでいたのは、現在、茅ヶ崎の保健所の中に県の福祉関係の出先機関があって、茅ヶ崎市が保健所を建て直して、単独でその業務を行う計画があり、今まで茅ヶ崎でやっていた業務が平塚に移るので、寒川の利用者が大変になるので、寒川に持ってきたらどうかということだったらしいです。何がメリットになるのかと私は聞いたところ、そこで主に取扱うのは生活保護の申請がメインだそうです。ある委員からも逆に町に持ってきちゃうと、あの人は生活保護の用事で来たというのが皆さんの目につき嫌じゃないんですかね。果たして本当に寒川に持ってくるのはどうなのかという意見がありましたが、茅ヶ崎市もコロナの関係もあって、結果的に財政の問題があるので、5年間延長になった様です。だから、そのまままだ5年間は使えることになったとのこと。結果的には慌ててやらなくてよかったのかなと。計画どおりであれば来年の4月でなくなるから、それまでに建てなくてとは、相当急いで動いていたようでした。

【委員】じゃあ、健康管理センターは、そのまま継続されるわけですか。

【部会長】まだ、今のところは応急措置しながら、保留となって、すぐにということではなくなったようです。以上が会議内容でした。

(5)令和3年度公民館事業報告(9～11月分)について
事務局および指定管理者から資料4について説明

【部会長】それでは、3館の取組について、何か御意見、御質問があればお受けしたいと思います。

【委員】次の議題にも係ってくる部分がありますが、公民館のサークル活性化ということで、大人のパソコン教室がサークル化したということは大変うれしく思いますが、講師がこの教室、サークルの長になるということでしょうか。

【指定管理者】 いえ、違います。私が講師をしていたので、参加者に積極的な女性の方がいて、その方が代表者になっていただけることになりました。昨日はワードの講座をやりましたが、大変楽しそうやっていました。

【委員】 指導は北部公民館の副館長がされているということですね。

【指定管理者】 当面ですが、私もずっと指導をするのも立場の問題になるかもしれないので、ボランティアセンターに相談して、人を確保する場にしたいと考えています。

【委員】 これはお金がかかりますか。

【指定管理者】 サークルでは各自のパソコンを持ってきていただいて、プロジェクターを通して、私が見本を見せるような感じで教えています。

【委員】 かなり北部はサークルに立ち上げて、つながっていていますね。

【指定管理者】 そうですね。講座からつながっています。

【委員】 ほかのセンターと南部でも、そういった声などが、感想みたいなものでも出てきていますか。内容によっては、なかなかサークルになるような講座にならないというのもありますが。

【指定管理者】 直近では、去年、センターでは自分史講座、文章を書く講座というのがありまして、そこから講座が立ち上がっています。それから、これまではクラシックギターですとか、ウクレレとか、楽器関係。ウクレレは、今ある講座から、初心者が分かれるような形、別のサークルができていますが、そのような形で幾つか新規サークルはできているような状況です。

【指定管理者】 南部公民館ではバドミントンの講習会の卒業生が、新しいサークルになりました。

【委員】 それを含めて、例えば、サークルがあっても、また同じような内容で講座をやるということも考えられるのかな。別に講座を設けて、新しい人をつくるということも生涯学習推進員の講座でやってみたいと思っています。感想です。

4. 協議事項

(1)令和3年度公民館部会の協議テーマについて

事務局から資料5について説明

【部会長】 一番肝腎要の協議事項について、ちょっと時間がなくなっていました。事務局から資料を送付されて、一読はされていると思いますが、これについて、何か御意見、御質問があれば、お受けしたいと思います。

【副部会長】 公民館まつりは今回、令和3年度は中止になりました。ただし、展示はやるということで、私の入っている写真の会は展示に申し込んでありますが、ほかのサークルの状況はどうでしょうか。

【指定管理者】 町民センターは、当初の公民館まつりの2日間に作品の展示をやることになり、参加希望のサークルにはエントリーいただくということで御案内させていただきました。

【副部会長】 はい。もらっています。

【事務局】 11月で取りあえず締め切りしましたが、大体、例年、サークル展示というのは、展示室1、2、会議室などを御利用いただいております、8割方のサークルから参加のエントリーをいただいています。

【副部会長】 8割ですか。場所は同じですか。

【事務局】 例年に比べて8割ですか。

【指定管理者】 はい、場所を変えると慣れていないところでの展示になりますので、従来の場所を変えずに、例年の割り当てで利用いただくことで御案内させていただきます。

【副部会長】 3月5日と6日ですよ。

【指定管理者】 そうです。

【指定管理者】 北部公民館は、利用者のサークル全部に御案内を出しまして、展示と発表をやります。展示は3月6日から20日まで、発表は20日の予定で募集しております。締切が12月25日ですが、今のところ10件ぐらいいは手が上がっています。コロナ禍ですので、発表はサークルごとに入替制にして、定員50人以内とマスク着用は厳守してくださいという条件で募集しております。

【副部会長】 そうですか。

【指定管理者】 南部公民館は、まつりが中止になることを各サークルに案内を出しまして、まつりに代わるものとしては、南部はビデオ上映と展示ということで募集をしました。結果的には、似たような系列のサークルを含めて、8サークルぐらいいから応募がありました。ほとんどはビデオ上映で、1サークルは展示をするというような状況になっています。時期は2月から3月の2か月間を予定しています。

【副部会長】 ありがとうございます。

【委員】 これの周知方法というのは、広報に載せるような形になるのでしょうか。

【事務局】 2月の広報掲載依頼はいただけていないので、3月の広報の締切はこれからですが。これはまつりという名称は使わない。

【指定管理者】 そうですね。公民館まつりという名前は、やっぱり使えないので、公民館サークル展示発表会みたいな別の名称で。

【委員】 ポスターとかは作りますか。

【指定管理者】 はい、ポスターはもちろん作ります。今回3館合同というよりも、各館で単独の開催になります。

【委員】 にぎわうといいですね。

【部会長】 ありがとうございます。この中で、課題1の中の2番目もそうですけれども、各公民館を回るとサークル紹介が作られています。これは北部のものですが、サークル紹介は全体で作ったよりも、各サークルの個々の情報、日にちですとか実際のサークルの内容が分かるものを各館で作られています。それと毎月、それぞれで公民館だよりも作られている。一応、公民館と南北には置いてありますが、ほかの施設には確か置いていなかった。公民館に来た人しか分からないので、せっかく作っていながら、もったいないと思いました。私は町役場のラックに入れたらどうかと思ったのですが、役場のラックにいろんなチラシだとか何か来たのを、ぼこぼこ差してあって、汚い、見苦しいということで、ラックが全部なくなってしまったんですね。しからばということで、広報課に行って、ホームページに載せられないか、うまく連動するようにできないかという話をさせていただきました。なるかどうかは別問題ですが、今、来年度の予算でホームページを変えるということを予定しているそうです。予算が取ればということですが、その時は公民館のバナーができないか話をしました。

【事務局】 町役場のホームページのトップから入れない、バナーがないということですかね。

【部会長】 そういうことです。これができるかどうかはちょっと分からないんですが、図書館だけはバナーがあります。ほかのところが無いんです。町のホームページに会社が広告を出していて、その広告優先の様な話がありますがそれはおかしいと思います。本来は、たくさんの町民の方が見ていただけるからリンクする価値があると私は思っています。公民館そのものの認知度が果たしてどのぐらい町民の方で知っているのかがまず一番大きな問題です。公民館に来たら教えてあげるのではなくて、簡単に見れて、こんなサークルが実際あって、何曜日にやっている、都合いいから行ってみようという様に情報提供を出さないといかんというのが私の考えです。これはラックに入れるということではありましたが、ホームページのバナーをつくってもらえるように変更できれば、公民館のサークル活動の活性化に繋がると思います。

【事務局】 ホームページのバナーについては、担当の広報戦略課に公民館のバナーを増やせないかと相談をしたところ、やはり町のホームページをスマートフォンで見ただくと、分かりやすいのですが、ホームページを見るために、画面を下にスクロールしていかなければなりません。有料で広告を出してもらっている会社のバナーがかなり下になって広告が見てもらえないという問題があって、バナーはこれ以上増やせない。今、そのことについて担当課から言われるがままにバナーを増やしてしまっていたけれど、実は今以上に削らないといけない、それなので新たに公民館のバナーも増やせないと言われていました。

【部会長】 要は何のために町のホームページがあるのですかという事です。町民が使いやすくするためではないのですか。要は広告のためにあるわけじゃないと思います。お金出してもらっているから、そちらを優先というのは、私はちょっと本末転倒じゃないのかなと個人的には思っています。

【事務局】 そういう考え方もあるかとは思いますが。ただ、町の情報というのは公民館の情報だけではありません。いろいろな情報、例えば、ワクチン接種ですとか、保育園の情報ですとか、いろいろと皆さんにとって重要に思う町の情報は結構違います。本当は、それをもっと分かりやすく分類して掲載しなきゃいけないと思います。もっとうちの情報を目立つように載せてほしいということは、なかなか難しいというのが正直なところです。図書館のバナーが前からトップページのところにあることについては、総合図書館が開館した時に、インターネットで蔵書検索ができるWebOPACという図書館システムの機能があるために、町のホームページとは独立して総合図書館のホームページをつくっていたために現在まで踏襲されて、ある意味、町の公共施設で図書館だけ特別にバナーが残っている経緯があります。それならば公民館とか体育館もバナーをつけたらいいじゃないですかということ、さらにほかの施設もみんな載せてほしいというような話になるので、本来のホームページの分類としては、町の施設の情報のところに集約して、そこから各施設を検索するように置いたほうがいい。今も図書館だけ別で、公民館とか体育館は施設のページから飛べるようになっていますが、たどり着くまでに何回かクリックしないとイケない。例えば、施設に飛んだらワンクリックで公民館のページに飛ぶようにできるといいのですが、今のホームページは構造上、もう1つページを作って、都合2回押さないと飛ばないようになっています。

るということです。せめてクリックの手間1回分を減らせないか聞きましたが、今のホームページのシステムではできないそうで、次にホームページ改修するときに改善できないか業者に相談をしてみるとおっしゃっていました。

【部会長】そこなんです。だから、そこで全部を見れることではなくて、すぐ飛べて分かるようにしたい。寒川町のホームページは基本的には町民が見ると思いますが、ほかの情報といっても、町外の人が見るといのはあまりないと思うんです。これも手前みそになります。観光協会でも、いろいろ今やっていて、例えば、先ほど出たダイヤモンド富士も、大体、1週間から10日間ぐらい、見える場所が徐々に移っていきます。その日にちを一覧表でホームページに出すと町内の方よりも、茅ヶ崎とか、藤沢とか、あるいはほかの方が、結構、写真撮りに来られるんですよ。どうして分かったか聞いたら、観光協会の一覧表を見て来ましたと言われます。だから、そういう情報を取れるようにするといい。私が先ほどから言いたいのは、とにかく公民館の情報が少ないと思います。それを知ってもらうための1つの方策として、極端にはお金はかけられないでしょうから、せっかくこういうものをつくっているからと、全部を町のホームページから簡単に公民館の情報に入れるようなシステムにしようかと、少しは違うと思います。

【委員】そのホームページですが、来てもらいたい人たちが見ているかという部分もあると思うんです。先ほどのパソコン教室がシニアの方が多いということは、扱いに慣れてないという部分がある。それも大切ですが、やっぱりホームページ以外にも、もっと紙媒体を本当にあちこちで置いてもらうとか。お年寄りというか、シニアの人たちには足を運びやすいと、受け入れやすいような媒体だと私は思うのですが、その辺の情報を、スマホとかは使っていますか。

【委員】私は使っていますが、そうですね、たまには開きますが、必要に応じたものしか見ませんね。あとは町のいろんなことは、掲示板でも出ていますし、私たち婦人会の仲間ではいろいろ情報交換がありますので、一応は今のところはそういう中で行動できております。

【副部会長】最近、やたらと、町民センターからLINEが入ってきますが、どうして私のLINEに入ってくるんですか。

【委員】ああ、LINEですね。私にも町からちょこちょこありますね。

【事務局】あれは町民センターではなくて、町役場のLINEからの発信ですね。

【副部会長】役場からですか。町民センターというか、公民館部会でも何かLINE発信はできないんですか。

【事務局】後でその話題もお話ししようかなと思っていたんですが、皆さん、利用者としてどう思われますか。いろいろ情報が入っていいなと思いますか、多過ぎるみたいな、印象でしょうか。

【副部会長】LINEだと、ああ、こういうことを役場でやっているんだというのが分かりますから、これが公民館のことが入ってくればわかりますよね。

【委員】行事もそういうふうな感じで入ってくると、どこの公民館で何やっているのかというのが分かりそうな気がするんですけど。

【副部会長】それできればいいですね。ただ、役場がどうして私のLINEに入ってきたか、それが分からないです。

【事務局】それは町役場のLINEを登録しているからだと思いますが。コロナのワクチン接種予約の時に登録しませんでしたか。

【副部長】してないです。

【事務局】スマホの電話帳で自動登録になって入る場合だと、LINEの仕様で登録されてしまったのかもしれないね。あとはワクチン接種の予約の時に町もLINE登録を呼びかけていましたので。

【副部長】ワクチン接種のときに入ったのかな、そうかもしれないですね。

【事務局】町のLINEについてですが、所管課の企画政策課の方から、ちょうど今週、話があって、公民館や図書館の情報もLINEで掲載しませんかとお声かけていただいたところでした。ぜひ載せたいという話をして、情報発信をする方法を教えてもらったばかりのところでした。情報発信は指定管理者からでは直接入力できないので、教育政策課で入力しなければならないのですが、載せられそうなコンテンツを考えていて、今度、町民センターのホールで、親子でコンサートとクラフト体験というようなワークショップがありまして、それを掲載してみようかと町民センターに相談したら、定員100人ですが、意外にチケットの売上げが好評ですということで。今ここでLINEの情報発信をしたら、すぐに売り切れそうだったので見送りましたが、いろいろと各館から情報を得ながら、今後、載せていきたいと思っています。今、町のLINE登録が約13,000人、町民の3分の1が登録をいただいている、40代から60代の方、いわゆる公民館利用者で欲している若い世代の方が結構登録いただいているということで町の広報を見てないような人にもスマホに情報が届けば、じゃあ行ってみようかなとか、親子で参加しようかなというふうな気になるのではないかなと思っています。本当はLINEで発信した情報は、スマホで申込みまで完結ができるいいのですが、今は公民館の講座の申込受付は大抵窓口か電話なので、それができていない。それについては来年度以降に向けて指定管理者との協議ですけれども、例えば、公民館のホームページにメール申込みができるようなフォームを機能追加してもらったりとか、そういう形で、例えば、スマホで得た情報で、そのままクリックするだけで参加申込や抽選申込ができるようになればいいと思っています。

【委員】そのほうが何か簡単でいいですね。わざわざ来なくてもね。

【委員】それは入っていれば、自動で送られてくるという形で見られるのですか。知りませんでした。

【事務局】若い世代に向けた講座とかをアピールしてみたいと思っています。

【委員】そうなんですね。もっと活用ができればいいですね。

【委員】必ず見ますからね。スマホは手放さないのでからね。

【事務局】今ちょうど教育政策課で、英語学習で東京に行くバスツアーを小学校3年生から6年生まで72人の募集で、12月1日から抽選で募集をしています。初めての事業なので、どれぐらい応募があるかを興味深く見守っております。申込開始前日の夜にLINEを送って、その翌日から申込みという形にしましたが、開始数日で応募があったのが30人ぐらいで思っていたより少なく、あと申込開始2日でほぼ申込みが止まってしまったというのがあって、やっぱり皆さん、チェックしている人は応募初日に申し込まれていますが、開始の翌日以降はなかなか数字が伸びないことが改めて分かりました。今はもう一回、LINE発信や学校にチラシ配布など、次なる策

を担当が考えています。

【部会長】 抽選だったらいいですが、優先受付だと、窓口が多すぎると、事務局が大変ですよ。電話があり、メールがあり、ファクスがあり、それと、今言ったLINEがありなんていうと集計が追い付かなくなる。実は観光協会の行事もパンクしたことがあります。受付人数がオーバーしてしまうこともありました。

【事務局】 そういう場合、人気がありそうなもので先着にする場合は、初日だけは窓口にするとかで、2日目以降、空きがあったら電話とか、そういうので受付するみたいな形で整理をするという方法もあります。LINEとかホームページでのPRというのは、今後はもう少し強化していきたい点だと思っております。あとは、通常の公民館講座に参加してくれる方に毎回アンケートを取って、私も毎月それを自分の中で集計していますが、ほぼ皆さん、情報を知る方法は8割広報です。たまにポスターで、ホームページから知りましたという人はほぼゼロです。そういう意味では、公民館のホームページの認知度が低い。ホームページから申し込めるようにしていないというのもあるのかもしれませんが、ちょっと認知度が低いというところがあるので、この辺は上げていきたいというのと、あとはアナログのメディアであるポスターは結構、皆さんどこかで見てくださっていて、何かのときに、あれ、ポスター貼ってあったねみたいな感じで言うてくださることが多いので、ポスター効果は侮れないです。

【部会長】 まず少しでも認知度を高める。もちろん、講座そのものは、やっぱりニーズに合ったものをやっていかなきゃいけませんし、公民館はこんな活動しているというのを、まず知ってもらうというのも大切だと思います。時間だけがなくなってきたので、最終的にこれでというのは、なかなか難しいですが、今の事務局からの話は実施できればひとつ大きな進展かなと思います。他に、こんなことしたらというものは何かありますか。先ほども話題にありましたが、音頭を取ってくれる人がいるかどうか。サークルになるために、そこをどうやったらよいのか。あれば入るけど、自分から積極的にという人がなかなかいない、だから、やらないという人もいます。

【委員】 それで入りたくても、仲間意識が強くて、オフリミットする人たちもいるわけですね。そうすると、そこに行きたかったんだだけ、それこそ意地悪されるみたいな、何か入りにくい感じとか、そういう話もちらりと聞いたこともあります。仲間意識は大事ですけど、やっぱり受け入れる側にそういう容量をもっと広げる度量も必要じゃないかなとか思うのですがね。

【部会長】 そのサークルが、どうやって持っていくかというね。最初は恐らく仲間内でつくられると思うんですよね。

【委員】 好きなもの同士が、それでサークルつくりますからね。

【部会長】 スタートは良いですが、そのままでは、だんだん年齢が上がって辞めていけば、自然消滅で、それでしょうがないということなのか、やっぱり継続して、もうちょっと続けていこうかというか。その辺の考え方で大分変わってくるのかなと思いますけれど、そういったことも、各サークルの課題としては分かっていると思います。

【委員】 この課題4の最後にありますが、講座からサークル立ち上げるしかないと思うんですよね。このために、北部では、先ほどシニアクラスでも講座を設けていますが、サークルの協力で講座をやって入ってもらうような形と、駄目だというサークルもありましたけどね。あとやっぱり興味のある講座を設けること。公民館部会でもこうい

う講座があることをお知らせするとか、そういったものでサークルの活性化というか、支援になるのでそこが一番大事だと思います。広報の仕方は、先ほどいいアイデアがあったので、次は魅力ある講座を開設するという部分だと思います。

【事務局】先ほどの話にもありましたが、北部で2つサークルが立ち上がったというのは、本当に喜ばしいことでもあります。多分、皆さん、何回か講座に参加して、このまま終わってしまうのはもったいないなと、せっかく仲良くなれた方と接点がなくなってしまうのが残念だなと思われるところで、じゃあ、サークル作りませんかと、思い切って踏み出していただけた成果かなとっております。このまま終わっちゃうのが惜しいなというような機会をつくるとか、あとは内容も、パソコンをもうちょっと勉強したいとか、そういうふうな気持ちにさせる講座も、もうちょっといろいろできたらいいのかなと。来年度以降の講座も、ぜひ、そういうのを強化していただけたらいいなとっております。

【委員】同じ講座を複数回、先ほどのパソコン講座も4回やっていたからと言われましたよね。複数回やって楽しいなということで、公民館がどうですかってアドバイスをするような形に持っていかないと、自分たちからやりましょうという声はなかなか立ち上がらないと思います。

【事務局】今、コロナ禍の弊害はありますが、その一方で、巣籠もりと言われていて、公民館の講座に参加してみてよかったと改めて気づきがあったり、サークル活動に対する興味とか志向が増えていたりすることもあるのではと思っています。むしろコロナ禍ということもあって、新しいサークルを立ち上げるのには、今はちょっと追い風、やりたいという気持ちが高められている部分もあるのではと感じています。

【委員】絞められているのが解きほぐされるからですかね。何かしてみたい気分になるというか。

【事務局】やっぱり何かしたいというようなところですかね。巣籠もり期間が長過ぎて、家でできる趣味が欲しいと思われる方が結構いらっしゃるようです。

【委員】そうですね。婦人会でも、ちょっとしたものづくりをやると、みんな夢中になって作りますからね。結構そんなものでも、積もっているものが発散できる何かがこの時期は欲しいんじゃないのかしら。

【事務局】ちょうど今、町民センターの展示コーナーで婦人会の作品展やっています。

【委員】展示させていただいております。

【事務局】先週の土曜日に飾りつけをしましたが、会員の皆さんがいろいろ手芸品を持ち寄ってロビーに集まっている時に、全然違う御用事で町民センターに来た女性が、これは何のグループですかって、婦人会で、これからここで手芸展をしようと思ったら、こういうものづくりやっているなら、私もぜひやりたいので婦人会にはどうやって入るんですか、友達と一緒に入りたいと言ってくださる方がいました。今まで、こんなことを契機に婦人会に入りたいという方もいなかったもので、会長も驚いていましたが、作品展をきっかけに、地域でこういうグループあるなら、私も参加してみたいという嬉しい声があって、早速、成果があったと思えました。あとは展示には教育委員会が協力しているので、展示作品のコメントをパソコンで入力・印刷して展示しています。展示開始してからも作品が追加されて、先ほど見たら、また作増えていて、会員の皆さんが結構、張り切って新しく作って、見るたびに増えているというところが面

白くて、楽しさがありますね。

【委員】多分まだ来ると思います。よろしくをお願いします。

【事務局】そういうのを楽しみながらやってくださるのがいいなと思いますし、それがちょっと見ている方にも伝わって、じゃあ、私も何かに参加しようかしらとか、ものづくりやりたいと言ってくださる方が増えるといいなと思います。クラフトの紙テープで籠がたくさん展示されていますが、あれを見て、籠づくりやりたいとおっしゃる方がいるので、婦人会の皆さんに講師になっていただいて、そういう講座もできたらいいのかなとは思っています。今後、そういう流れをできればいいですね。

【部会長】やっぱり見える化というのかな。やっぱり文字だけじゃなくて、こういう、見られるものがあると違うと思います。

【委員】また、皆さんコメントをうまく書いていて。教育委員会で作ってくださって、大変ありがとうございます。

【事務局】作品だけをただ飾っているだけでなく、何かそれにまつわるコメントがあると読みたくなりますよね。

【委員】今まで飾るだけでしたが、コメントがあると全然違いますね。

【事務局】立ち止まって読みますからね。ちょっとしたことで面白いですね。

【委員】そのところ、今度また考え直します。

【事務局】ぜひお願いいたします。

【部会長】ほかに何かございますか。ある意味、永遠のテーマと言えます。これはこれでいいということではなく、ずっと何年も、戻すばみにならないで、やっていかなくてはいけないのかなと思います。正直言って、ちょっと私の考えが大き過ぎるのかもしれないませんが、現在は自治会の会員数も68%ぐらいになり、入らない人が増えて悩んでいるということなので、公民館サークルから人のつながりができて、そちらのほうにもいい影響が出ればいいなと個人的には思っています。そのためには、じゃあ、どうしたらいいかというのは非常に難しいテーマですけれども。いくつか話が出ていましたが、来年に向けて、いろいろ修正しながらやっていけば、またいろんなアイデアが出てくると思います。公民館の活動をもっと活発にできれば良いなと思います。それでは、ここで一応閉めさせていただきたいと思います。

5. その他

・次回の部会の開催予定について

・県社会教育委員連絡協議会、県公民館連絡協議会関係

地区研究会（横須賀市）1月20日（木）森委員（書面開催へ変更）

県公民館大会（川崎市）1月28日（金）山口委員、堀委員（オンライン開催）

地区研究会（秦野市）2月14日（月）青木委員、倉本委員（書面開催へ変更）

6. 閉会

堀副部会長

